

# わたしとあなた、 そしてみんな

## 子どもの発達と集団

### 第1回 連載にあたって

#### 集団的営みとしての文化

個人の発達のありようは、さまざまな要因との相互関係であります。私は、現在北海道の釧路湿原に近接している鶴居村で生活しています。その土地で生活するということは、その土地の食べ物を食し、その地域の自然のなかで営む生活を通して、その人となりとなっていくと

談の仕事に長くかかわってきました。そのなかで感じてきたことは、「その子どもの発達を保障するには、その子どものことを考えるだけではできない」ということでした。個別の相談でありながら、そこでは、子どもが生活する家庭やきょうだい、あるいは、通っている通園施設や保育園・学校でのさまざまな人との関係が背景としてあります。保育園の乳児の保育室を訪ねたときのことです。

保育士に抱っこをされているAちゃん(10カ月)と目が合いました。私がAちゃんに微笑みかけると、立ったままじつと私をみていたBくん(12カ月)が笑いしました。Bくんに「こんにちは」と頭を下げてじつと微笑むと、そのやりとりをみていたAちゃんが、保育士をみて笑っています。その様子をみて、Cくんは、手にしていた車のおもちゃを私に渡してくれます。「あひゃん」の「ん」と「ん」と、今度は離れてみていたDくんも手にしていたブロックを持って来て手渡してくれます。

これらは、乳児期後半〜1歳児のクラスでよくみられる光景です。



北海道教育大学

小淵隆司

おぶち たかし / 1960年生まれ。千葉県などで発達相談員として長年勤める。著書に『育ちあう発達相談 “子どもの発見”を手がかりに』(かもがわ出版) など。

いうことです。

北海道の寒さのなかで生活することと沖繩の自然のなかで生活することは、単に気候や食べ物といった生活のちがいとどまりません。全校児童20人に満たない小学校で生活をしていることも北海道ではごくふつうです。放課後は、家が点在しているため、ほとんど家族以外の人と会わず生活をしている子どもも少なく

こちらが意図しようとしまいと、子どもたちは、周囲の様子や状況に応じて自発的に活動をしています。さらに、この状況に関与していた子どもは4人ですが、ひよつとすると周辺でみていた2、3人の子どもたちにもこれらのやりとりによって情動の共有体験が生まれた可能性もゼロではないでしょう。

また、今日では、乳児が集団生活の中で保育者との関係だけでなく、子ども同士のかかわりを求めていることや子ども同士の関係が「大人―子どもの関係」とは質のちがったかわりであることも実践的に明らかにされています(『かわりを育てる乳児保育』、2009)。

\*

私たち人間が社会的な存在であるとい

ありません。

まど・みちおさんの詩「ぼくがここに」にあるように、ここにいることは、同時にほかの場にいることはできません。そのような存在として私たちは、一人ひとり生きています。しかし、私たちは、一人でいながら、一人じゃないことを知っています。

生活様式やことば・文字は、文化的な産物です。自分一人だけで習得できるものでもなければ、一人だけで創り上げたものでもありません。生まれたときからある生活や環境・文化は、私たち人間の祖先がさまざまな形で社会的に生産し、蓄積してきたものです。私たちは、長い年月をかけ、さまざまな周囲の人々や遠く離れた人々との関係やかかわりを通してそれらの能力を身につけてきました。

人々が混ざり合い、個人の経験を他者へ伝えあう集団的営みがあったからこそ、文化として蓄積されてきたのです。

一人ひとりの個人の能力や発達は、集団や社会との関係抜きには存在しないのです。

#### この連載で考えたいこと

私はこれまで、病院や自治体で発達相  
うことは、個人の発達が社会のあり方に規定されているということです。身近なことで言えば、集団のあり方や状態によって個人の発達は影響を受け、時には「個人の発達が制約されることもあり得る」ということです。

「集団参加が苦手」、「集団はわずらわしく、自由がない」というときの集団とは、どんな集団なのでしょう。一方、「みんながいたからがんばれた」「友だちに支えてもらって乗り越えられた」という集団とはどのような集団なのでしょう。

集団も「ある特定の限定された状態」であって、流動的で可変性があります。「どう集団に参加できるか、させるか」という問いから、「その集団がどのような集団なのか?」と問いなおすことで、「集団の発達」や「心地よい集団」について考える可能性が広がります。

この連載では、上記に加えて「集まる  
ことがむずかしいなかでの『集団』とは?」「へき地小規模校の小さい集団って?」「集団参加とは、どのようなこと?」等、集団のあり方や状態(集団の発達)、そのありようと個人の発達の関係について、考えていきたいと思えます。一年間、どうぞよろしくお願ひします。

